

平成25年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	平成夏まつり支援事業				担当部	市民産業部				
	会計区分	一般会計		事業類型	一般	担当課	生活交流課				
	事業期間	平成12年度以前		～	平成30年度以降		担当係	交流係			
	総合計画 分野別計画	主目的	1 市民生活		2 交流		1 住民相互のつながりを深める				
		副目的									
	予算区分	款	2	項	7	目	2	大	4	中	2
	根拠法令・個別計画										
	目的 (対象をどのような状態にするのか)	平成夏まつりは、平成元年から友好都市の八雲町の山車行列を参考に始められた。参加者だけでなく、観客も楽しむことができるように、すばらしい山車やパフォーマンスを披露することにより、市民活力の向上とするだけでなく、中心市街地活性化にも貢献する。									
内容 (手段)	<p>◆24年度実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企画運営は、より市民ニーズに近いイベントとするため、参加団体や市民団体によって構成される実行委員会が主体となって行い、市は補助金の交付などの支援を行っている。</li> <li>参加する団体の組織で構成する実行委員会の補助</li> <li>事務局として各機関との調整・準備・進行等</li> <li>小牧の中心街を行灯山車(ねぶた山車)とパフォーマンス(ハネ踊りやよさこい)や太鼓などでの行列の実施</li> <li>来場者との一体感創出を図るために、山車行列中に一時運行を止めて、ハネ踊りを踊る「こまき総踊り～目指せ一万人～」の実施</li> <li>一般公募を含む審査員やインターネット投票による、優秀な山車・パフォーマンスの審査</li> <li>手筒花火を中心とした打ち上げ花火と和太鼓、レーザー演出の競演によるフィナーレの実施</li> </ul> <p>◆24年度直接経費の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成夏まつり補助金 18,000千円、その他 824千円</li> </ul> <p>※25年度実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小牧の中心街を行灯山車(ねぶた山車)とパフォーマンス(ハネ踊りやよさこい)や太鼓などでの行列の実施</li> <li>25年度は、織田信長公の小牧山城築城450年記念事業とタイアップし、小牧の魅力を発信するよう検討していく。</li> <li>一般公募を含む審査員やインターネット投票による、優秀な山車・パフォーマンスの審査</li> <li>手筒花火を中心とした打ち上げ花火と和太鼓、レーザー演出の競演によるフィナーレの実施</li> </ul> <p>◆25年度直接経費の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成夏まつり補助金 19,000千円、その他 642千円</li> </ul>										
受益者負担	無										

		単位	H22決算額	H23決算額	H24決算額	H25予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	21,351	17,525	18,824	19,642	
		正職員	従事者数	人	0.85	0.85	0.85	0.85
			人件費	千円	4,530	4,530	4,530	4,530
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
	費用合計	千円	25,881	22,055	23,354	24,172		
	対前年比	%		85.2	105.8	103.5		
財源	一般財源	千円	25,881	22,055	23,354	24,172		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	0	0	0	0		

業 績	活動指標名		単位	H22	H23	H24	H25
	参加団体数	団体	目標	23	23	23	23
			実績	22	21	17	
			目標				
			実績				
			目標				
			実績				
	成果指標名		単位	H22	H23	H24	H25
	来場者数	団体	目標	75,000	75,000	75,000	95,000
			実績	77,000	83,000	91,000	
		目標					
		実績					

事業の自己評価	平成24年度の実施結果	<p>事業の達成状況</p> <p>広報や各種雑誌等のメディアを利用し、幅広い年齢層をターゲットにしたPR方法により、来場者数9万人を突破した。参加団体については、昨今の景気状況により伸び悩む形となった。</p> <p>事業実施における課題</p> <p>近年、来場者数は増加傾向で、平成夏まつりに対する期待も大きくなっているように思われる。平成夏まつりをより盛り上げるためにも、参加団体数の目標値を達成できるように積極的に呼びかけていくとともに、山車製作の負担を軽減する等、必要に応じて参加方法の見直しの検討を行う。</p> <p>事業を縮小・廃止したときの影響</p> <p>平成夏まつりは、平成元年から友好都市である八雲町の山車行列を参考に始められ、友好関係象徴の一つである。参加団体数17団体・来場者数9万人を超える市内最大級のイベントとなっている。市民の楽しみ・憩いの場であると同時に地域間コミュニケーションにも大きな役割を果たしている。以上より、事業を縮小・廃止したときの影響は大きいと考える。</p>	
	平成25年度の改善内容	<p>25年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)</p> <p>25年度は織田信長公の小牧山城築城450年記念事業とタイアップし、小牧の魅力を発信することで、さらなる地域活性化を図る。具体的には信長山車の作成や各参加団体による信長山車行列を実施予定。また、今年度で小牧平成夏まつりも四半世紀を迎え、市民や参加団体にアンケートを実施し、今後のまつりの方向性を検討していく。</p>	
	平成26年度の事業の方向性	方向性の判定	維持 事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)
		判定理由	24年度の実施結果でも記載したとおり、市内最大級のイベントであり市民活動にも大きく影響している。このイベントに参加するため1年をかけ準備したり、当日来場を楽しむにしている市民も多く、同様のイベントも近隣にない状態であることから上記の判定を行った。
		26年度以降の改善案	25年度で小牧平成夏まつりも四半世紀を迎え、各参加団体や一般市民、来場者等に平成夏まつりに対するアンケート調査を実施する。そこから導き出される意向をもとに報告書を作り、必要に応じて夏まつりの改善案の検討を行う。

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。25年度に一般市民・参加団体を対象としたアンケート調査から、現状の山車行列を主体としたまつりを継続してほしいという多くの意見の他に、参加者に負担が大きい、マンネリ化しているという声がある。山車製作期間の前倒し等で参加者の負担を軽減し、より魅力的な山車製作や表現方法等を検討する。